



**PHOTO SERVICE**

**Plan for the end of life**

# メモリアルフォト&終活雑談会

高齢者施設向け出張撮影 — 笑顔の思い出を、家宝になる一枚に  
何度も相談可能な笑顔ある終活相談会

株式会社クロスワン 〒171-0044 東京都豊島区千早2-38-16 クロスワンビル2F 03-5986-1118

「ご利用イメージ」 入居者と職員の通常生活を「微笑み写真」として残します。



※写真はイメージです

「ご家族の思い出を、形にして残す」 家宝として写真を残す日本文化があります。



※写真はイメージです（ご家族のお誕生日の思い出より）

## 「サービス概要」 他の施設との差別化が可能になります。

高齢者施設にご入居の皆様に「元気な笑顔」と「最高の思い出」を写真に残していただく出張撮影サービスです。

プリントには銀塩方式（フィルム由来の高画質プリント）を採用し、ご家族が代々受け継げる「家宝」の一枚をお届けします。

撮影は遺品整理士の資格を持つプロカメラマンが担当し終活相談をしながら笑顔の写真を撮影し、安心してご利用いただける体制を整えています。

終活相談を明るく楽しく相談できる座談会形式で行うことにより、家族に大切な資産や思い出を残すことが可能になります。

## 「特徴」 メモリアルフォトと終活雑談会で明るい笑顔を誘います。

### 銀塩写真で残す「家宝」

色あせしにくく、世代を超えて受け継がれる一枚に。

100年印画紙を使用しております。  
未永く美しい光沢を残します。

世界最高峰の日本の銀塩写真を残しましょう！

### 集合写真+個人写真

おしゃれをして撮る集合写真のあとに、個人写真も撮影。

集合写真は、仲間とスタッフの微笑み写真を撮影します。  
笑顔あふれる写真に思い出を残します。

ご要望により、個人のお写真を撮影いたします。

### 年1回の撮影会

定例行事として、他施設との差別化に。

家族が来る時や大切なイベント時に出張撮影が可能です。

お誕生日会などに是非お呼びください。

拘束時間によりお値段が変わります。

### 遺品整理士が撮影

エンディングノートの無料配布・説明も実施。

分からないことや不安は是非お話しください。  
プロの私達が明確にお答えいたします。

守秘義務厳守なので安心してお話しください。

## 「遺品整理士について」 未来を真剣に語り合う事が可能です。

遺品整理士は、一般財団法人遺品整理士認定協会が認定する資格です。遺品整理に関する専門知識や実務スキル、関連法規への理解を深める養成プログラムを通じて取得します。

### 学習内容

- ・遺品整理の理論と実務を網羅した教本（3部構成）
- ・大学教授等による資料集
- ・弁護士・大学教授による講義DVD
- ・約2ヶ月間の学習期間とレポート提出による最終評価



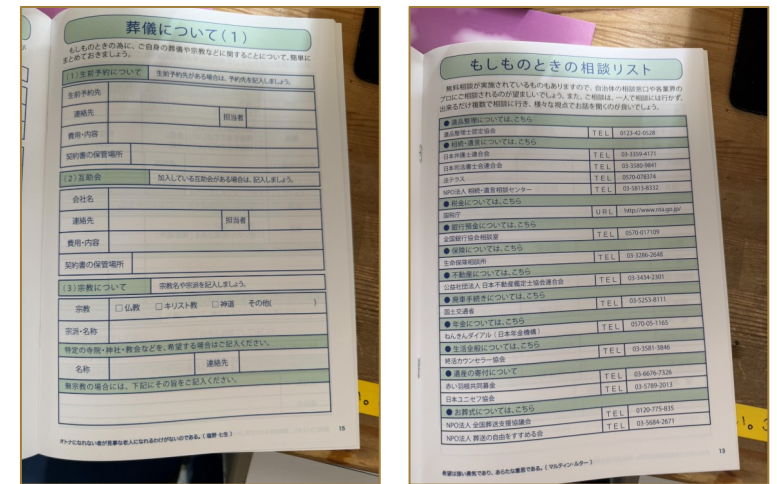
本企画の撮影スタッフは、全員この遺品整理士資格を保有しています。

# 「終活ノート（エンディングノート）無料配布」 大切な家族に残す重要なメッセージ

撮影会にご参加いただいた皆様には、終活ノート（エンディングノート）を無料で配布いたします。

遺品整理士の資格を持つカメラマンが、記入方法についても分かりやすくご説明します。ご自身の希望やお気持ちを書き記しておくことで、ご本人・ご家族が自然な形で「これからのこと」に向き合うきっかけをご提供します。

撮影はあくまで「元気な笑顔を残す」ことが主目的であり、終活ノートのご案内は無料の付帯サービスとして、押し付けのない形でご提供いたします。



※実際に配布する終活ノートの一例

終活ノートの配布・記入説明は、すべて無料サービスです。

# 「ご葬儀」に関するご相談もお話できます。

見送るご家族に負担を掛けないご葬儀を、あらかじめ決めておくことができます

## 金銭的な負担

葬儀社への支払い、式場使用料、祭壇・装花、お布施、来客の食事代、香典返しなど（一般葬の平均 約150万円）

## 時間的な負担

葬儀社や式場との打合せ、僧侶との打合せ、通夜と葬儀の開催、供花の確認など（合計15～20時間、通夜葬儀含まず）

## 身体的な負担

長時間立ちっぱなし、通夜による睡眠不足、葬儀あいさつ、火葬場同行、来客や僧侶の対応など



ご自身のご葬儀について、明るく楽しく相談しませんか。

## メモリアルフォト 仕上がり例（額縁仕上げ）



約10枚前後の撮影データから、好きなお写真をお選びいただけます。



# 価格

| 内容                            | 価格      |
|-------------------------------|---------|
| 集合写真 2Lサイズ額縁入り（撮影は無料・額装プリント代） | 2,000円  |
| 個人撮影（Lサイズ2枚プレゼント付き）約10カット撮影   | 5,000円  |
| 個人撮影 2Lサイズ額縁付き（追加）            | +2,000円 |

- ※ 表示価格はすべて税別です。
- ※ 個人撮影は、約10カットの撮影データの中から好きなお写真をお選びいただけます。
- ※ 出張撮影の拘束時間・内容により料金が変わる場合がございます。詳細はお見積りにてご案内いたします。

# 株式会社クロスワンについて ― 事業紹介

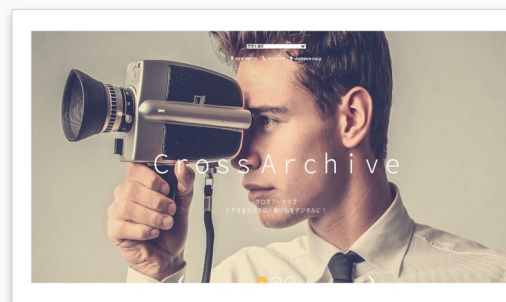


会社名：株式会社クロスワン 〒171-0044 東京都豊島区千早2-38-16 クロスワンビル2F 03-5986-1118

事業内容：ネットプリント・3Dフィギュア制作・民泊・賃貸事業を主軸に複数の事業を展開



写真事業部（ネットプリント）



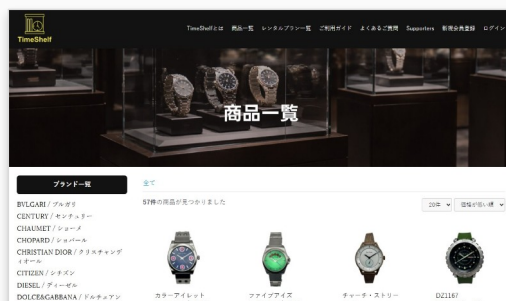
動画・撮影サービス



おたからや（リユース事業部）



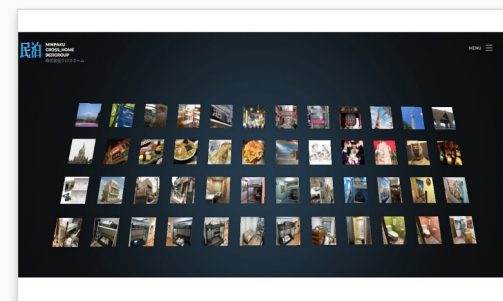
フランチャイズ（FCのFC）



ヴィンテージ時計（TimeShelf）



信長デイトナ（FINANCIE）



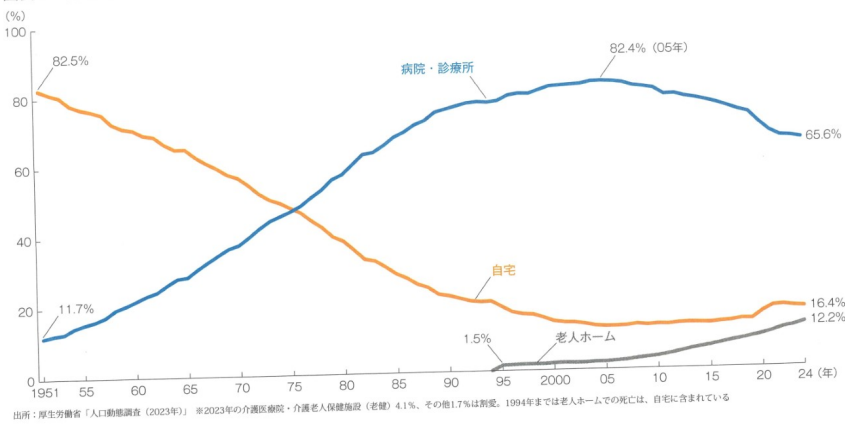
民泊・住宅宿泊管理事業



ふるさと納税（民泊体験）

▶ 各事業の詳細はこちら <https://www.9631.co.jp/service.html>

図表2 死亡場所の推移 (1951～2024)



現代の葬儀は、これら全国に分布する1万2,000か所の葬祭会館、寺院会館（東京23区など）、寺院本堂、火葬場に併設された式場のいずれかで施行されるといっても間違いではない。

火葬場の併設式場は、火葬場の調査研究や情報提供、教育研修などを行なう業界団体・日本環境斎苑協会によれば、全国1,384か所（26年4月現在）の火葬場のうち、全体の23％に当たる318か所となっている。火葬場は一般的に自治体や広域組合が運営するが、東京・埼玉・神奈川・愛媛・沖縄などには民間企業が運営する火葬場が存在し、特に東京23区では火葬場が発生した歴史的経緯から、現在でも9か所中7か所が民間火葬場と圧倒的に優勢である（火葬件数で7割弱）。

(2) 死亡場所

ここで、会館発生との因果関係が強いといえる死亡場所について、考察したい。

葬儀は遺族（例外はある）から施行依頼を受けてはじめて受注に至る。病院下げの寝台車（搬送車）の依頼のみの場合もあるが、基本、電話連絡が入れば施行確定となる。24時間365日、深夜でも早朝でも待ったなしだ。自宅で亡くなれば自宅へ、病院で亡くなれば病院へ、介護施設で亡くなれば介護施設へ遺体の引き取りに行く。

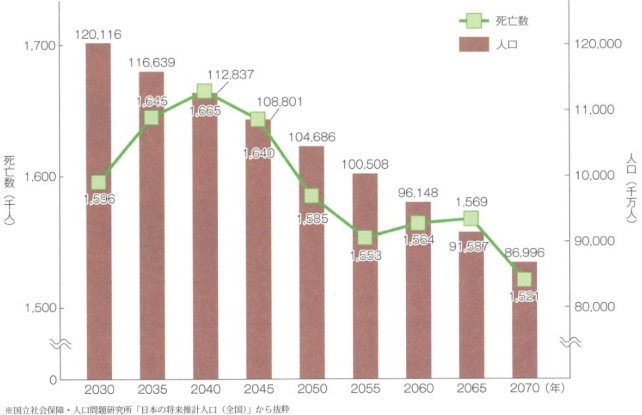
引き取りには寝台車で向かうが、どこに向かうかは最期の臨終地となる死亡場所が大きく関わっている。

厚生労働省「死亡の場所別にみた年次別死亡数・百分率」によると、調査がはじまった1951（昭和26）年当時、全体の82.5％（この年の死亡数83万8,998人）が「自宅」で亡くなっており、「病院・診療所」で亡くなる人は11.7％にすぎなかった（図表2）。しかし、翌年以降自宅の減少に相反して年を追うごとに病院・診療所が増加。ついに76年、病院・診療所48.3％、自宅46.3％と逆転する。それから約半世紀、2024年の死亡場所は病院・診療所65.6％、自宅16.4％、老人ホーム12.2％などと大きく様変わりしている。病院・診療所は05年に82.4％でピークを迎えたのち減少傾向にあり、反面、自宅は揺り戻して増加傾向、95年から調査項目に加わった老人ホームも同様にふえている。

死亡場所の変遷が会館の発生と大きく関わっていると論じたのは、次のような理由からである。

前項とも一部重複するが、病院・診療所で亡くなると一刻も早く遺体を院外に搬出する必要に迫られるが、遺体の行き場として都市部を中心に広まった集合住宅ではむずかしかった。遺体が自宅に安置できないのなら、なおさら葬儀はとり行なえない。その代替施設として会館

図表 8 日本の将来推計死亡数と人口（2030～70）



亡中位）推計から手がかりを得たい。出生中位（死亡中位）推計とは、出生と死亡の高位・中位・低位を組み合わせた9通りの推計のなかで、最も現実的で実績値に近い組合せであり、これまでもさまざまなメディアで使われてきた。

周知のとおり、今後、死亡数はふえ続け、40年の166万5,000人（人口1,000人当たりの死亡率14.8）でピークを迎えるとされる。その後は減少局面に入り、49年に160万人を割り込むと55年には155万3,000人（同15.5）まで落ち込むものの、57～64年まではいったん増加に転じる。しかし、65年以降は再び減少し、最終的には70年に152万1,000人（同17.5）となる（図表8）。

この値は、25年の死亡数158万9,489人の約96％に当たり、あまり減少しないようにみえるが、25年の将来推計死亡数と実績値を比較すると、すでに25年の時点

で実績値が推計値を6万人余り上回っており（5年ほど早いペース）、率にして4％ほど上振れしている。このまま4％上積みそのまま40年を迎えたとなると、173万1,600人という推計値が得られる。とはいえ、単なる机上値であり、その後の減少局面における死亡数も含めてまったく想像の域を出ない。

結局のところ、実態に即した将来死亡数を得るには、25年の国勢調査にもとづく社人研の将来推計を待つしかない。日本の将来推計人口（全国）は、過去、国勢調査の実施年の約2年後には公表されているので、27年には公表されるのではないだろうか。

社人研の将来推計では、同時に人口推計もなされている（図表8）。それによると、今後、出生数の低下と死亡数の上昇により毎年100万人ほどの自然減が続いた結果、死亡数がピークになる40年には1億1,283万7,000